

## 塩焼き体験で熱中症対策を行いました。（2020年度）

愛知県西尾市（暮らしおの協力団体です）の「西尾市塩田体験館 吉良饗庭塩の里」には、復元塩田があり、例年、夏休みの時期を中心に塩田体験が行われており、また塩田でつくったかん水（濃い塩水）を煮詰めて塩をつくる「塩焼き体験」が、こちらは通年で開催されています。

しかし、2020年は、新型コロナウイルスの影響により、塩田体験は中止となり、夏休み期間には塩焼き体験だけが開催されました。ソーシャルディスタンスを保つため、1回当りの定員も12名と制限しての開催となりました。

屋外での塩田体験がないとはいえ、時節柄、新型コロナウイルスだけでなく、熱中症にも気をつける必要があります。塩田体験館では、例年同様、暮らしおの熱中症対策啓発ポスターを掲示して注意を呼びかけるとともに、受付に塩飴を設置し、塩焼き体験の参加者や、その他の来場者にお持ちいただきました。

塩田体験がなく、また夏休みが例年より短かったこともあり、夏場の来場者は例年に比べて少数でしたが、約200名の方に塩飴をお持ちいただき、熱中症予防に役立てていただきました。



## 塩づくり体験でも周知活動や熱中症対策を行っています。(2019年度)

塩と暮らしを結ぶ運動では、愛知県西尾市の「西尾市塩田体験館 吉良饗庭塩の里」において、昨年度に引き続き、運動の周知と、熱中症対策を実施しています。

愛知県西尾市は、塩と暮らしを結ぶ運動の協力団体です。復元塩田のある塩田体験館では、今年も、夏休み期間の水・日曜（お盆の時期を除く）に、「夏休み塩田体験」が行われました。

今年の「夏休み塩田体験」（全10回、各回定員40名）は、全ての回がほぼ満員という人気振りでした。その第1回目は、7月21日（日）に行われました。

当日は、曇り空でしたが、温度、湿度ともに高く、熱中症に注意が必要な天候でした。そんな中で実際の塩田作業を体験していただいた皆さんには、熱中症にならないよう、適宜の休憩、水分補給をしていただくとともに、塩と暮らしを結ぶ運動の塩飴も活用いただきました。

暑い中、塩田作業を体験した皆さんは、昔の人たちの技術に関心するとともに、塩づくりの大変さを実感しておられました。受付では、塩と暮らしを結ぶ運動の冊子『塩と暮らしのあれこれBOOK』もお配りし、昔は大変な思いをしてつくられていた塩が、現在でも私たちの暮らしと深く関わっていることをお伝えしました。



## 塩づくり体験でも周知活動を行っています。（2018年度）

塩と暮らしを結ぶ運動推進協議会の協力団体である愛知県西尾市の「西尾市塩田体験館 吉良饗庭塩（あいばじお）の里」は、江戸時代から三河湾の製塩業の中心であった吉良地域にあり、復元塩田で、昔ながらの塩づくりを体験することができる施設です。

塩づくり体験のメニューには、塩田でかん水（濃い塩水）をつくり、これを煮つめて塩の結晶をつくるまでの一連の行程を行う「塩田体験」と、濃い塩水を煮つめるところだけを行う「塩焼き体験」の2種類があります。このうち、より作業が大変な「塩田体験」は事前申込み制で、5・6月と9・10月に月例で開催されるほか、7・8月には、日曜と水曜日（お盆を除く）に、「夏休み塩田体験」として開催されています。

今年の「夏休み塩田体験」は、7月22日（日）から8月26日（日）まで全9回が実施されますが、申込受付を開始してすぐに、全ての回の定員（40名）が予約で埋まるほどの人気です。

「塩田体験」では、塩田に砂を撒き、海水を撒いて乾燥させ、塩分が付いた砂を集めて、海水をかけてかん水を採ります。昔の塩づくりの仕組みや、それがいかに大変なものだったのかが分かります。

参加者の皆さんには、塩と暮らしを結ぶ運動の冊子『塩と暮らしのあれこれBOOK』をお配りして、昔は大変な苦勞をしてつくられていた塩が、現在でも私たちの暮らしに深く関わっていることをお伝えしています。また、特に夏場の塩田作業は熱中症のおそれもあるので、施設内に熱中症対策のポスターを掲示して注意を呼びかけるとともに、運動の塩飴もお配りしています。

